



県推進会議 笈田副会長に聞く

予備軍含め1620万人 糖尿病対策待ったなし

糖尿病のまん延が国民的な問題になる中、医師、看護師、栄養士らでつくる県糖尿病対策推進会議（会長・松田尚武真医師会長）が十月に設置された。患者増加に歯止めをかけるため、地域でどのような活動を進めるのか、同会議の笈田耕治副会長（日本糖尿病学会評議員）に聞いた。

「糖尿病は今や、国民病はともいわれている。病状の進行に沿って発症する国内の患者数は約八百万人。境界型（予備予防が三本柱となる。まず軍）を含めると約千六百二十万人といわれ、人口の約十分の一が糖尿病にならない割合を大きく超えている。医割を大きく超えている。医療費抑制の意味からも糖尿病対策は急務。今回の対策会議設置が、日本医師会主導による全国的な動きのもの、危機感の表れといえる」

「病状の進行に沿って発症する国内の患者数は約八百万人。境界型（予備予防が三本柱となる。まず軍）を含めると約千六百二十万人といわれ、人口の約十分の一が糖尿病にならない割合を大きく超えている。医療費抑制の意味からも糖尿病対策は急務。今回の対策会議設置が、日本医師会主導による全国的な動きのもの、危機感の表れといえる」

予防、血糖管理を徹底

「糖尿病は今や、国民病はともいわれている。病状の進行に沿って発症する国内の患者数は約八百万人。境界型（予備予防が三本柱となる。まず軍）を含めると約千六百二十万人といわれ、人口の約十分の一が糖尿病にならない割合を大きく超えている。医療費抑制の意味からも糖尿病対策は急務。今回の対策会議設置が、日本医師会主導による全国的な動きのもの、危機感の表れといえる」

「糖尿病は今や、国民病はともいわれている。病状の進行に沿って発症する国内の患者数は約八百万人。境界型（予備予防が三本柱となる。まず軍）を含めると約千六百二十万人といわれ、人口の約十分の一が糖尿病にならない割合を大きく超えている。医療費抑制の意味からも糖尿病対策は急務。今回の対策会議設置が、日本医師会主導による全国的な動きのもの、危機感の表れといえる」

「糖尿病は今や、国民病はともいわれている。病状の進行に沿って発症する国内の患者数は約八百万人。境界型（予備予防が三本柱となる。まず軍）を含めると約千六百二十万人といわれ、人口の約十分の一が糖尿病にならない割合を大きく超えている。医療費抑制の意味からも糖尿病対策は急務。今回の対策会議設置が、日本医師会主導による全国的な動きのもの、危機感の表れといえる」

「糖尿病は今や、国民病はともいわれている。病状の進行に沿って発症する国内の患者数は約八百万人。境界型（予備予防が三本柱となる。まず軍）を含めると約千六百二十万人といわれ、人口の約十分の一が糖尿病にならない割合を大きく超えている。医療費抑制の意味からも糖尿病対策は急務。今回の対策会議設置が、日本医師会主導による全国的な動きのもの、危機感の表れといえる」

糖尿病対策の重要性を強調する
県推進会議の笈田耕治副会長

「糖尿病は今や、国民病はともいわれている。病状の進行に沿って発症する国内の患者数は約八百万人。境界型（予備予防が三本柱となる。まず軍）を含めると約千六百二十万人といわれ、人口の約十分の一が糖尿病にならない割合を大きく超えている。医療費抑制の意味からも糖尿病対策は急務。今回の対策会議設置が、日本医師会主導による全国的な動きのもの、危機感の表れといえる」

「糖尿病は今や、国民病はともいわれている。病状の進行に沿って発症する国内の患者数は約八百万人。境界型（予備予防が三本柱となる。まず軍）を含めると約千六百二十万人といわれ、人口の約十分の一が糖尿病にならない割合を大きく超えている。医療費抑制の意味からも糖尿病対策は急務。今回の対策会議設置が、日本医師会主導による全国的な動きのもの、危機感の表れといえる」

「糖尿病は今や、国民病はともいわれている。病状の進行に沿って発症する国内の患者数は約八百万人。境界型（予備予防が三本柱となる。まず軍）を含めると約千六百二十万人といわれ、人口の約十分の一が糖尿病にならない割合を大きく超えている。医療費抑制の意味からも糖尿病対策は急務。今回の対策会議設置が、日本医師会主導による全国的な動きのもの、危機感の表れといえる」